

## 2018 年度チャレンジセンター活動実績

### 【第 19 回チャレンジセンターセミナー（秋学期）】

- ①日時：2018 年 3 月 20 日（火）17：00～19：00
- ②場所：湘南校舎 8 号館 4 階 401 教室（テレビ会議システムにて中継）  
代々木校舎 4 号館 1 階 4103 教室  
高輪校舎 1 号館 1 階 1-3 会議室  
清水校舎 1 号館 3 階 1303TV 会議室  
伊勢原校舎 1 号館 8 階 8E07 教室  
熊本校舎 本館 5 階視聴覚室  
札幌校舎 メッセ 12 階 M1212 教室
- ③セミナー対象者：東海大学学生・教職員・地域からの参加者
- ④聴講人数：139 名（湘南 128、代々木 0、高輪 5、伊勢原 0、清水 0、熊本 6、札幌 0）
- ⑤講師：末延 吉正（東海大学文学部広報メディア学科教授）
- ⑥講演タイトル：「嘘ニュースに騙されないために ～政治とメディアの攻防を日米比較で検証」
- ⑦講演概要：  
末延教授は、「ニュースは、報道する側が作りたい方向に作る『メイキングニュース』ではなく、実際におきていることを正確に伝える『カバードニュース』であるべき」と指摘。テレビ局在職中に携わった取材やニュース番組の制作、フリージャーナリストとして世界の紛争地域を巡った経験を踏まえ、憲法改正や安全保障、資本主義がかかえる矛盾といった、現在の日本で注目されている話題について分析しました。また、報道する側の視点から、情報を簡潔・適確に相手に伝えるための方法についても紹介。最後に、「今、皆さんが見ているニュースは、メディアというフィルターを通して作られたものです。現場でおきている真実の姿を自分で分析して読み取る能力を、東海大学にいる間に身に付けてください」と語りました。講演後は、学生 3 名が末延教授とともに登壇して質疑応答を展開。会場からも多くの質問が寄せられました。

## 2018年度チャレンジセンター活動実績

聴講した学生は、「ニュースは自分の価値観だけで判断せず、さまざまな考え方があ  
ることを意識して、広い視点から解釈するようにしたい」「『人は信じなければいけな  
いが、人の伝える情報は疑ってみなければいけない』という言葉が印象に残りました。  
同じテーマについて新聞を読み比べ、テレビニュースを見比べて真実がどこにあるか  
を考えていきたい」「効果的な伝え方を学ぶことができました。新入生にプロジェクト  
の紹介をする際に実践します」などと感想を話していました。

### 【第20回チャレンジセンターセミナー（春学期）】

①日時：2018年7月20日（金）17：30～19：00

②場所：湘南校舎 8号館4階401教室（テレビ会議システムにて中継）

代々木校舎 4号館1階4103教室

高輪校舎 1号館1階1-3会議室

清水校舎 1号館3階1303TV会議室

伊勢原校舎 1号館8階8E07教室

熊本校舎 本館5階視聴覚室

札幌校舎 メッセ12階M1212教室

③セミナー対象者：東海大学学生・教職員・地域からの参加者

④聴講人数：206名（湘南118、代々木0、高輪13、伊勢原0、清水2、熊本73、札幌0）

⑤講師：礪波 清一（東海大学現代教養センター教授）

⑥講演タイトル：人と地域とのつながり

⑦講演概要：

礪波教授ははじめに自身の経歴を語り、ホテル業界や不動産業界で働いた経験や、国内外のリゾート地の成り立ちについて紹介しました。また、自身が起業した株式会社EWELのビジネスモデルや事業内容、クライアントの傾向などについて説明したほか、リゾート開発に携わった北海道ニセコ町における経済波及効果について解説。外国人観光客が増加しているニセコ町の成功要因について、「地元の住民ではない人がその地域にほれ込んでリゾート開発を後押しし、それを住民が受け入れて支援したことが重要。人と地域を理解し、信頼関係を築くことが何より大切です」と語りました。学生

からは、地域住民とのかかわり方や地域創生に必要なポイント、起業の際の注意点など多岐にわたる質問が挙がり、礪波教授が一つひとつ丁寧に答えました。参加した学生は、「地域活性化の実例を聞くことができ、とても参考になりました」「起業したときの話聞いて、事業を興すことに興味を持ちました」と感想を述べていました。

### 【チャレンジプロジェクト 2018 年度中間報告会】

①日時：2018年10月20日（土）10：00～15：00

②場所：湘南校舎 14号館地下

③対象者：東海大学学生・教職員・地域からの参加者

④来場者：600名

⑤概要：

湘南キャンパスで「チャレンジプロジェクト『中間報告会』」を開催しました。今年4月から9月までの上半期における各チャレンジプロジェクトの活動や実績について、プロジェクトメンバーが地域の方々や学生、教職員に紹介するもの。本キャンパスで同日に開催した「TOKAI グローカルフェスタ 2018」の一環として実施し、当日は全国のキャンパスで活動する20のチャレンジプロジェクトの代表者が成果を報告しました。

14号館をメイン会場に開催した今回は、各プロジェクトに所属する学生たちがそれぞれブースを設営し、訪れた学生や地域住民に向けて活動目標やこれまでの実績を紹介しました。「サイエンスコミュニケーター」では長さの異なる金属パイプを地面に落下させて音楽を奏でる「バンジーチャイム」を披露する科学実験ショーも開催。多くの親子連れでにぎわいました。また2号館前では「ライトパワープロジェクト」がソーラーカーと人力飛行機を、「Tokai Formula Club」がフォーミュラカーを展示。ソーラーカーのデモ走行も行い、間近で見学した子どもたちは「宇宙船みたいでかっこよかった。運転席にも乗せてもらえてうれしかった」と笑顔で話していました。

参加したプロジェクトメンバーは、「ほかのキャンパスで活動するプロジェクトと交流を深められる貴重な機会。目標は違っても、共通した長所や課題があるので、参考になるものが多く、実りある1日になりました」「これまでにさまざまなイベントで活動報告をしてきた経験を生かして、見やすい資料や分かりやすい説明ができるように準備を進めてきました。学生だけでなく、子どもたちにも私たちの活動の魅力を

## 2018年度チャレンジセンター活動実績

伝えられてよかった」と感想を話していました。本センターの岡田工センター長（現代教養センター教授）は、「昨年度からグローバルフェスタの一環で中間報告会を開催し、学生同士だけでなく地域住民の方たちにも各プロジェクトの活動を知ってもらう場になっています。初めて自分たちの活動を知る人にも分かりやすく説明することは、容易にできることではありません。学生時代にこのような経験を積んでおくことは、社会に出てからも大きな武器となるでしょう。また、今年の報告会では、ほかのプロジェクトの説明を熱心に聞く学生の姿も印象的でした。それぞれの学生たちが、『自分たちのプロジェクトに生かせるアイデアを探そう』と意欲的な姿勢で臨めていたからこそだと思います。今後もキャンパスを横断した形で、学生同士の交流が深まる機会を提供していきたい」と話していました。

★2018年度、チャレンジセンターは、上記の活動以外に、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、「スポーツボランティア研修会」（2回）、および「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」（1回）を実施した。